



白萩

学校だより「しらはぎ」

令和6年 3月号

あきる野市立増戸中学校

編集：副校長 中山恵施

多様な学びへ

校長 木下美彦

寒暖差の激しい日々が続いています。近所を散歩して今年初めてのウグイスの声を聞きました。アジサイの葉の成長やスイセンの花を見て、春の訪れを感じます。3月となり今年度を振り返り、生徒に卒業や進級へと確実に次の段階に進めてもらいたいと思います。

新型コロナの扱いが緩和されましたが、インフルエンザなどの感染症対策にも気を付けながら活動の充実を図ってまいりました。高齢者福祉施設での体験活動も実施でき、コロナ前の学校行事をすべて実施することができました。中止になっていた学校内外の行事や活動の再開で、生徒も教職員も今まで経験したことのない場面もありました。コロナ前に戻るだけでなく、新しい気付きの中でより良い方向を見付けていくことが大切でした。

令和の日本型教育では、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に進めていくことをめざしています。それは他者と会話することが一つのポイントになります。生徒と教職員との会話、生徒同士の会話など、世代を越えた会話ができる条件が、今年度はそろってきたと感じています。

冬季休業日以降、学習用タブレットの自宅への持ち帰りを実施しました。事前に御家庭の通信環境を確認させていただきました。学校では生徒と担当教員によるデジタル委員会で、より良い活用方法を検討し情報モラルの向上を図りました。委員会内で話すこと、学級内で話すことはこれからも継続していく課題です。ネット上のゲームや動画視聴という生徒にとって娯楽的な面では普及しているかもしれませんが、自分の学習のための道具としていかに活用していくかも課題です。自分に合った学ぶ方法と他者と一緒に学ぶ方法は、学ぶ側と教える側で共に考えていきます。これからも保護者の皆様の御意見をいただき改善していきます。

標準服について意見をいただきながら検討に入りました。PTA代表の方や教職員からの意見を参考にしています。デザインや配色など今の標準服は、なかなか良いとは思っています。ただ夏の暑い時期が長くなるなどの環境の変化へ対応できるような機能的な面やスカート・スラックスと選択できるような今の時代に合ったものができないかと考えました。令和7年度に向けて進めていますが、次年度からもできるところは部分的に改定します。

校則についても意見交換をしています。生徒代表と担当教員による校則検討委員会で話し合ったことの内容項目を全教職員で考え、生徒からアンケートを取るよう進めています。アンケート結果を参考に、より良い中学校生活を過ごせる環境作りに努めます。

学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）が、あきる野市内の全公立小中学校で1月から始まりました。地域と学校をより強く結び付ける制度です。次年度からは学校運営協議会の委員の方々と話し合い、地域学校協働活動としての御協力をいただき、小中一貫教育とともに運営を強化してまいります。

19日は第77回卒業証書授与式です。卒業生には「どこに行ってもやっていける人」として、次の進路先で活躍していくことを期待しています。

保護者・地域の皆様、増戸中学校の教育に御理解と御協力をいただきました。ありがとうございました。今後も様々な学びを深めるよう努めてまいります。